

原発事故汚染水の海洋放出を直ちに中止せよ！

「廃炉」の都合ではなく、海洋と人間の健康を守るアプローチから考え直すべきだ

岸田政権は福島原発事故の汚染の海洋放出の実施を突如決定し、8月21日には全漁連との「約束」を反故にして「廃炉まで国が全責任をもって必要な対策を講じると約束する」と述べ、一方的に24日から放出を開始した。

東京電力は第1回(8/24~9/11)、第2回(10/5~10/23)、第3回(11/2~11/20)に、各7800トンの汚染水を海洋放出した。中国や南洋諸島の異議申し立てには、「IAEAが認めている」と繰り返すだけで、誠実には対応していない。

原発汚染水の放出を停止し誠意を持って論議せよ

経産省のホームページでは「なぜ処理水を処分するの」について、福島第一原発ではALPS処理水の保管タンクが増え続け、廃炉作業を進めるためには、タンクを減らす必要がある。そして「海洋放出しても大丈夫？」にはトリチウムについては海水で大幅に薄めまるので、環境や人体への影響はないと説明している。

次頁の「核戦争防止国際医師団」の声明を読んでいた

できれば、保管タンクの建設できる地区は十分あるし、他の方法もあること。汚染水の安全性については十分の検査が行われていないことが明らか。これ以上の放出を中止し、安全性、処理方法について再検討すべきである。

東海第二原発 放射能事故が起れば最大17万人

首都圏に近く、もし事故が起れば多数の住民が被害を受け、多くの人々が避難を強要される「東海」第2原発の避難の規模を茨城県が原電に試算させ発表した。

最大の事故(30キロ以内が避難の対象)を想定する条件の下で、事故の状況や風向きを考慮した22案を想定。南西向き風で長雨の時は那珂市とひたちなか市と周辺で約17万人が避難対象となる。避難計画はまだだ。

COP28(11/30~12/12)UAEで開催 岸田首相演説は「化石賞」の第一号

アラブ首長国連邦(UAE)のドバイで国連気候変動会議(COP28)が11月30日から12月12日まで開かれた。今年の総会では、「化石燃料時代の終わりに合意」が大きな課題であったが、米国、中国、そして産油国の賛同が得られず、「化石燃料の消費と生産を減らすとの例示にとどまった。環境団体からは「全く不十分」との批判。

岸田首相は1日の首脳級会談で、アンモニアや水素を化石燃料と燃やす「技術」をアジアで広めると述べ、「見せかけの環境配慮」だと批判された。そして「化石賞」の第1号となった。日本は2日には21カ国と共に「2050年までに原発を3倍」の宣言をしたが、環境NGOからは、「危険な原発を利用する余地はない」と批判された。

核禁条約締結国会議(11/27~12/1)

「核抑止論の脱却」を主張

国連本部で開かれていた「核兵器禁止条約」の第2回締結国会議は1日に政治宣言を採択して終了した。

会議には59か国の締結国以外に35か国がオブザーバーとして参加した。日本政府は参加せず、広島・長崎の知事と反核団体が参加した。「政治宣言」では核兵器への依存度が増している現状を「遺憾」として、「抑止論」から脱却すべきだとした。そして核保有国から非核保有国への核兵器の譲渡・配備を「明確に禁止する」とした。

報告 12/16 パレスチナに自由を！ 関西ガザ緊急アクション 集会・デモと追悼アクション、リレースピーチ

12月16日に関西ガザ緊急アクション主催で「パレスチナに自由を！ 関西緊急アクション」が大阪扇町公園で開催された。約500人の市民が参加して開かれた。

集会では国連総会では153カ国という圧倒的多数で停戦を要求する決議が採択されたように、アメリカとイスラエルは孤立している、今こそ「イスラエルはパレスチナ虐殺は止める」の運動を強化することが呼びかけられた。議員と政党の挨拶の後、真辺明彦さんとSwingMASAさん演奏があり、MASAさんの「不屈の民」の演奏に合わせて、皆でスペイン語の歌詞「エル プエブロ ウニド ハマス セラ ヴェンシード(団結した民衆が破れることはない)」を合唱した。

その後、梅田まで約500人でデモ行進を行なった。大阪駅北口では、各地域、各団体から、そして在日パレスチナ人から活動の報告と決意が述べられた。

TEARS FOR PALESTINE

大阪駅北口では、若者主体の企画である「TEARS FOR PALESTINE~パレスチナに涙を~」が同時アクションとして行われた。在日パレスチナ人がガザで犠牲になった人の名前、性別、年齢を読み上げる中で、多くの参加者の手で赤い涙が白い横断幕に書き込まれていった。読み上げに続き、犠牲者に対する黙とうが行われた。そして大学生、高校生、中学生を含む若者の率直なスピーチが相次いだ。



扇町公園で集会



500人で梅田まで



血の涙を

集まろう！声を上げよう！事態を変えよう！

太平洋をフクシマの放射性廃棄物のゴミ捨て場にするな

核戦争防止国際医師団(IPPNW)による声明 2023年5月15日

「太平洋を放射性廃棄物のごみ捨て場にするな」

これはIPPNW(核戦争防止国際医師団=1958年ノーベル平和賞受賞)が2023年5月15日に第23回世界大会で採択した日本にむけての声明文のタイトルである。フクシマの130万トンを超える放射能汚染水の太平洋放流計画を断念するように日本に求めた医学的要請であり、東電の出した資料の不足、誤り、矛盾、希釈が汚染水の人体への影響を無視できるという科学的、医学的根拠の不足などをきっちり指摘した上での声明である。

このIPPNWの声明は、日本のマスコミでは報道されていない。それは、IPPNW日本支部を運営している広島県医師会がこの声明を承認しないということによると言われている。

2023年6月1日には日本国内の反核医師の会(PANW)は賛同支持の声明を出した。

この声明を多喜百合子さんが翻訳され、護憲詩誌「いのちの籠」に掲載されたので、転載させていただきます。

福島第1原子力発電所事故による130万トンを超える放射能汚染水の 太平洋への放出計画を断念するよう日本に求める

医学的要請

長期的な人類と地球の健康を促進し、保護する専門的責任を有する医師として、私たちは日本政府に対し、被災した福島第一原子力発電所からの大量の放射能汚染水の太平洋への放出計画を中止するよう求める。私たちは、太平洋を放射性廃棄物の捨て場として利用する計画は、海洋と人間の健康に対するリスクを伴うものであり、責任あるものでも持続可能なものでもないと考えます。

その代わりに、私たちは、地震に対して安全な専用タンクでの保管、場合によっては初期浄化後の保管、人間や他の生物と接触する可能性がほとんどない、あるいは全くないコンクリート構造物への利用、ストロンチウム90のようないくつかの重要な同位体に対するバイオレメディエーションなど、いくつかの実行可能な代替アプローチを十分な証拠に基づき透明性をもって検討することを強く求める。提案されている代替案はすべて、影響が桁違いに小さく、国境を越える影響も回避できる。

懸念事項

私たちは、「見えないところでは気にしない」「希釈が汚染の解決策」というアプローチは、過去の世紀に属するものだと主張する。それは、今後40年にわたって続くと予測される、この計画的な放射能投棄に関わる重大な越境的、世代を超えた人権的問題を無視している。

日本の海洋投棄計画に対する懸念は、中国や韓国、そして多くの太平洋島嶼国からも強く表明されている。複数の国連特別報告者がこの計画を厳しく批判し、米国海洋研究所協会や多くの地域・国際保健・環境市民団体も反対している。

私たちの見解では、汚染水を貯蔵する場所が不足しているという議論は誤りである。汚染水は何十年もの間発生し続けるだろうし、近隣には他の用途には長い間適さないスペースがたくさんあり、すでに県内外地からの大量の汚染土の保管に使われている。実際、海洋排出を開始する緊急性はない。

日本政府の約束

1985年、太平洋諸島フォーラム(PIF)は、当時の日本の首相が「日本は、この地域のコミュニティが表明した懸念を無視して、放射性廃棄物を海洋投棄する意図はない」と表明したことを歓迎したことを思いだす。現在の計画は、この公約と矛盾している。

PIFのヘンリー・ブナ事務総長は、2022年7月に日本が同フォーラムとの定例会合を行った際、岸田首相がこの問題を国際法と検証可能な科学に合致した形で進展させる必要性を再確認したことに留意した。事務総長

は、代替案を十分に検討し、最善の行動を計画するために、太平洋諸国と敬意を持って十分な証拠に基づく協議を行うために、計画されている排出の延期を求めたが、無視された。

独立した科学的評価

放流計画に関する最も権威ある独立した科学的評価は、PIFによって任命された5名の独立した国際科学パネルによって実施された。専門家たちの結論と勧告は全会一致であった。その主な結論は

東京電力は、すべてのタンクの特定の放射性核種の含有量に関する知識が著しく不足している。敷地内にある1000以上のタンクのおよそ4分の1しかサンプリングされておらず。ほとんどの場合、PIFと共有されているデータでは全64核種のうち9核種以下しか測定されていない。

異なるタンク間で様々な放射性核種の比率が一定であるという東京電力の仮定は、何千倍ものばらつきを示すデータと矛盾している。

サンプリングと測定は代表的でなく、統計的に欠陥があり、偏りがあり、日本が少なくともいくつかのタンクに存在すると認めている瓦礫や汚泥が含まれていない。汚泥や、瓦礫は最も放射物質が多い可能性が高い。

海洋における放射性元素の挙動については、海洋による移動を考慮した十分な検討がなされていない。

海流や生物による移動、生物相や海底堆積物への蓄積と濃度、有機結合したトリチウムの海洋環境での挙動など、海洋における放射性元素の挙動について十分な検討がなされていない。日本の東海岸沖の海底には、計画的な放出が行われる前の震災前の最大1万倍のセシウム濃度がまだ存在する。

東京電力もIAEAも、委員会が提起した多くの重大な科学的疑問を認めず、取り上げていない。例えば、東電は2019年にサンプリングしたタンクから半減期がわずかに9時間の同位体であるテルル 127 が検出されたと報告した。これは、核分裂反応を伴う偶発的な臨界が溶融炉心で継続的に起きているか、測定が間違っているかのどちらかを意味する。

しかし、納得のいく回答は得られなかった。実際IAEAは国際科学パネルとの連絡を絶った。

独立専門家委員会は、全会一致で海洋投棄を続行すべきではないと勧告した。科学的証拠と越境的・世代的影響を最小化する必要性に基づく彼らの圧倒的な主張は、海洋投棄には新たなアプローチと代替案が必要であり、それが責任ある道であるというものである。

結論

私たちは日本に対し、太平洋を放射性廃棄物の投棄場として利用する計画を中止し、代わりに海洋と人間の健康を守るアプローチを追及することを求める。

日本戦没学生記念会機関誌『わだつみのこえ』 No159 (1958年創刊)

発行日:2023年12月8日 (1000円+税)

【特集「学徒出陣」80周年】

声明:「戦争準備行為と改憲をやめさせ、「絶対不戦」を守り抜きましょう」

解説:「わだつみ会声明の立ち位置について」

資料:わだつみ会の歴史関連年表、関連資料

理事会
冠木 克彦

【特集 わだつみ会 8/15 集会】

「アジア侵略の実態と日本の戦争責任」

森 正孝

【各地の平和のための行動】

「関東大震災100年朝鮮人・中国人虐殺追悼の集会の報告」

各地で開かれた戦争展の報告 高槻、藤沢、名古屋

靖国神社への「合祀取り消し要求行動」に参加

「不戦兵士 近藤一さんが教えてくれること」

西端 順子
会員からの報告
岩本 勲
池田 恵理子

【わだつみ会第6回オンライン連続講座】

「わだつみ会は戦争とどう向き合ってきたのか」

那波 泰輔

【投稿】「来年の中学校採択に向けて 採択の民主化を闘いとうろ」

棄てられた「皇軍」の虐殺とバナバ民族の悲劇

伊賀 正浩

北口 学

【書評】『ヒロポンと特攻 太平洋戦争の日本軍』(論創社)

『PTSDの日本兵の家族の思いと願い』(あけび書房)

志水 博子

石川 豊子



購読ご希望の方は事務局まで連絡ください。送料込みで1000円でお送りします。

生活保護基準減額 国に賠償命令 (朝日 12/1)

国が生活保護基準を2013年から15年に引き下げた改定をめぐる訴訟の控訴審で、名古屋高裁は30日に、愛知県内の13人の生活保護費の減額決定の取り消しと国家賠償を命じた。改定が「統計等の数値と合理的関連性を欠く」とし、厚労相にも重大な過失があるとした。全国30件の訴訟で国賠を認めたのは初めてである。

市民連合 4野党と政策合意 (東京 12/8)

安保関連法の廃止を求める「市民連合」は12月7日に立憲民主、共産、れいわ新選、社民の野党4党と、参院会派沖縄の風と面会し、次期衆議院選挙の野党連携強化に向け、共通政策について合意を取り交わした。

憲法9条の改正阻止、ジェンダー平等、物価高対応等5本柱である。国民民主党は参加しなかった。

安保理 ガザ停戦決議に米が拒否権 朝日 12/9

国連安保理は8日に、イスラエル軍の侵攻が続くパレスチナ自治区ガザ地区で即時の人道的停戦を求める決議案を採決した。15か国の理事国のうち、日本を含む13か国は賛同、イスラエルを支持する常任理事国の米国が拒否権を行使して採択されず。英国は棄権。

12日には国連総会特別会合で153カ国の賛成多数でガザ停戦決議案は採択された。反対はイスラエルと米国など10カ国、ドイツや英国など23カ国が棄権した。

広島市長 職員研修で教育勅語 (朝日 12/12)

広島市の新規採用職員研修で、松井広島市長は「心の持ち方」などとして戦前の「教育勅語」の一部を研修資料に引用していた。「教育勅語」は戦後、日本国憲法に相いれないとして排除・失効が国会で決議されている。

市長は就任翌年から続け、今後も使用すると表明。

報告 12/10「国際人権宣言の日」の統一行動 改悪入管法の施行阻止全国アクション

中之島公園で、①改悪入管法の施行反対、②未成年仮放免者に在留資格を、③ウイシュマさん死亡事故の不起訴を許さないの3点で集会が約100人の参加で開催。ウイシュマ裁判の空野弁護士から裁判報告。裁判に提出された記録ビデオはYouTubeで公開しているので、ひどい実情を見てほしい。ウイシュマさんは日本の入管制度の犠牲者だ。必ず国の責任を明らかにしたい。



提出された記録ビデオはYouTubeで公開しているので、ひどい実情を見てほしい。ウイシュマさんは日本の入管制度の犠牲者だ。必ず国の責任を明らかにしたい。

集会とデモは若い学生と青年を中心に、仙台、東京、名古屋、福岡、高知など全国9箇所で開催された。集会終了後に、西梅田公園まで元気よくデモ行進を行った

報告 12/17 高良さんを迎え核兵器維持廃絶平和集会

17日に吹田・北千里で集会実行委員会の主催で「日本を戦争する国にさせない、核兵器廃絶 平和集会」が、沖縄選出の高良鉄美参院議員を講師として開かれた。

関西わだつみ会等21団体の協賛で約300人が参加した。高良さんは「日本の軍事力強化、憲法改悪を許さない」の講演をされた。最後に岸田内閣への決議を採択。



案内 12/22 原発いらナイト in 宝塚に参加下さい

129回目の原発いらナイトは1週間前倒しの22日にあります。年末のお忙しい時期ですが、ぜひおいで下さい。



阪急宝塚駅とJRの連絡橋で、午後5時から1時間、サキソフンの生演奏の下で、8人くらいで、約150枚のチラシを配布します。

案内 12/23 万博中止! カジノはいらん! 御堂筋パレード



大阪維新が誘致する「IR・夢洲カジノ」のために、万博を夢洲埋立地に誘致し、今やほとんどの国が参加を躊躇する状態となっている。23日に「万博もカジノも不要」大行動が行われる。

日時: 12月23日 14:00 集合
場所: うつぼ公園(東園広場)→なんば
主催: 12.23 パレード実行委員会

案内 12/23 日本の台湾侵略と「台湾有事」



ウクライナーパレスチナー台湾一尖閣 戦争を煽るのは誰だ!

日時: 12月23日 13:30
場所: エルおおさか 709 会議室
参戦と天皇制に反対連続行動

案内 12/24 神戸朝鮮高級学校吹奏楽のコンサート



宝塚の市民運動が協力して、毎年の年末に宝塚で神戸朝鮮高級学校の吹奏楽クラブのコンサートが開かれている。今年は14回目。朝鮮学校を支援し、生徒たちとの友好関係を積み上げていこう。

日時: 12月24日 14:00
場所: 阪急宝塚ソリオホール
阪急宝塚駅下車、駅前

報告 12/9 ハンセン病問題を学ぶ市民の会 講座 金正美さん「てっちゃんとの16年間で私にくれたもの」

群馬県の栗生楽泉園で生活されていた詩人“てっちゃん”と「祖父と孫娘」として16年間交流された金正美さんの話があった。まず金正美さんがNHKで制作された「人間ドキュメント」=裁判勝利後の“てっちゃん”の里帰りが上映。講演では、初めて会った時には「怖くて顔を見れなかった」こと、そして帰り際に“てっちゃん”から「あなたは金さん、朝鮮人はこれから大変だよ」と言われた。帰ってから、差別していた自分を思い泣き続けたという。

“てっちゃん”に教えられたのは「人間はどんな状態におかれても生きていける。継続していくことが一番大事。」桜井さんが最後に言われたのは、「楽しかった!嬉しかった!ありがとう!」。私もそんな充実した人生を送りたい!

編集後記 今年の24回のご愛読に感謝します

今年も病氣と付き合いながら、24回の発行ができました。政権の「原発再推進」から始まって「汚染水の海洋放出」、「老朽原発の稼働延長」など、まだまだ止められません。(永島)